

01 Blackboard@Tamagawa 活用事例

01 ELF センター (CELF) ミリナー・ブレット先生/コーテ・トラヴィス先生

ELF センター (CELF) における Blackboard の活用事例

ミリナー先生 (写真左) は ELF センター (CELF) 助教。研究領域はモバイル支援型学習 (MALL) と学生の学習動機づけ。JALT CALL SIG と横浜 JALT の会計担当、デジタルモバイル言語学習 (<http://dmll.jaltcall.org>) のレギュラー寄稿者。

コーテ先生 (写真右) は観光学部助教、ELF センター (CELF) 兼担。これまで各種国内外の学会や言語教育ジャーナルにおいて多数の発表実績がある。研究領域は教師教育、コンピュータを利用した言語学習、多読、カリキュラム開発等。



◆はじめに

Blackboard (以下 Bb) はインターネット上でオンライン教育や授業の開発を行うことができる学習マネジメントシステム (LMS) です。Bb は玉川大学 (以下本学) をはじめ、全世界で 20000 以上の組織、200 万人のユーザーが活用しており (Blackboard Inc., 2014)、本学では Blackboard@Tamagawa という名称で、様々な学部、学科において活用されています。

2014 年 4 月に ELF センター (Center for English as a Lingua Franca, 以下 CELF) が新設されました。CELF では教員・学生間のコミュニケーションツールとして Bb を活用しているだけでなく、教員同士、学生同士のコミュニケーションツールとしても Bb を活用しています。

◆玉川大学における ELF プログラム

本学では 2012 年度より ELF プログラムを導入しました。ELF とは「English as a Lingua Franca」の略であり、その意味は「第一言語が異なる人々との間で、コミュニケーションの媒体として利用する際の英語」となります (Seidlhofer 2011, p. 7)。玉川大学の ELF プログラムの目的は①英語を使うこと②コミュニケーションが成り立つ英語を習得させること

③英語の持つ機能を正しく理解することです。ELF の授業では、英語という言語が学生 (日本語を母語とする) と教員 (英語を母語とする教員だけではない) の間におけるコミュニケーションの手段になっています。

2012 年に 3 学科 436 名の学生から始まった ELF プログラムは、2014 年には CELF として組織を構え、5 学部 1,800 名の学生に授業を

展開するまでに急成長しました。また、2015年度には3学部から約800名の学生が新たにプログラムに加わる見込みです。

このような急速な拡大に伴い様々な課題も浮上していますが、ELFプログラムにおいてほとんどの教員がBbを初めて使うにも係らず、本学のBbのLMS利用の学科間比較では、ELFの担当教員はBbの活用率が最も高いという調査結果が出ています。

◆ ELFプログラムにおけるBbの活用事例

CELFに所属する教職員はBbを利用してELFプログラムを管理・運用したり、学生の学修支援を行ったりしています。また、学生も自分のプログラムの学修状況をBbを通じて確認を行っています。

以下、CELFが行っているBbを利用した教員・学生向けの学習サポート、CELF教員2名によるBbを利用した学修活動について報告します。

①管理運営業務支援

CELFの教職員は様々な事務処理をBbを活用して効率的に行っています。また教員同士が共有できるグループをBb内に設置し、教員同士の連絡や情報の共有などを行い、効率的な業務処理を行っています。

② CELFワーキンググループページ

CELFワーキンググループページではCELF専任教職員による協働作業が行われており、管理運営業務について告知・議論・共有が行われています。例えば、毎週の教員の打合せの議題や会議の議事録、事務・教務文書、教育活動の記録、休講のお知らせ等、様々な内容をBbで共有しています。



CELFワーキンググループページ

③ CELF受講学生グループページ

CELFの専任教職員はこのページを通じてELFの受講生といつでもコンタクトを取ることができます。ここではELFプログラムの情報、カリキュラム、チューターサービス、TOEIC試験日やさまざまな海外留学に関する情報等、あらゆる情報が共有されています。専任教職員はこれらの情報にアクセスでき、自ら情報を発信したり、様々な学生生活や教務事項について周知することができます。学生調査アンケートなどもこのページ上で行われています。アンケートの集計はすべてオンラインで処理され、パソコンやスマートフォン、タブレットにおいて使いやすい仕様となっています。



CELF受講学生グループページ

④ CELF教員グループページ

CELFでは、ELFプログラムの成功は教員によるものと考えています。そのため、教員同士がコミュニケーションをとったり、様々な情報を共有できることがとても重要だと考えています。我々はBbの持つコミュニケーション機能やファイル共有機能を活用し、プログラムを成功に導くためのフィードバックを共有したり、効率的な授業運営支援を行ったりしています。

例えば、我々はELFプログラムの新任教員に対してのオリエンテーションを行う際に、ELFプログラムガイドブックを使用していますが、これはBbで共有しています。また、授業で使われる音声教材や映像教材、教科書や様々な補助教材もBbで共有しています。教員は授業で使う多種多様な教材を持ち込まなくても、自分のノートパソコンを持っ

ていけば、教室備え付けの AV 機器を利用して教科書を投影したり、音声ファイルや映像ファイルを再生したりすることが出来るようになっていきます。

ELF 担当教員が閲覧、コメントできるブログもこのページに開設しており、情報交換やディスカッションが盛んにおこなわれていますし、チューターサービスもこのページで管理しています。チューターはこのリンクにアクセスし、毎回のセッションの記録を書き留めており、その情報を共有しています。



CELF 教職員用グループページ

このように、この教員グループページは日々の授業のためだけでなく、ELF プログラムの調整やカリキュラムの開発等においても重要な役割を果たしているといえます。

⑤ ELF Blackboard Workshop

前述のように、ELF の教員の大半は玉川大学に初めて在籍する人ばかりであり、Bb を使うのも初めてだという人がほとんどです。そこで、我々は Bb を活用するためのワーキンググループを作りました。

ワーキンググループのメンバーは新任教員に Bb を紹介し、その機能ついでの使用手法や授業における Bb の活用法を提案するためのワークショップを企画しました。



ELF Blackboard Workshop

2013 年度の ELF パイロットプログラム開講以来、新任教員向けに年 4 回ワークショップを開催しました。月曜日 / 水曜日担当教員と火曜日 / 金曜日担当教員双方に対応するために、1 時間のワークショップを 2 回に分けて開催しました。どのワークショップも参加率はとても高く、終了後のフィードバックも非常に肯定的なものでした。2013 年度に参加した非常勤教員にワークショップが有益であったかどうか聞いたところ、13 名中 12 名の教員から肯定的な回答を得ることができました。現在は Bb システムの採用率、利用率において、ELF の教員が他の学科と比べて最も高いという結果となりました。

◆ ELF の授業における Bb の活用事例

(ミリナー先生)

① ブログ機能の活用

私の担当する ELF の授業では、Bb の機能としては主にブログ、成績管理、テスト、アナウンスを利用しています。学生が英語で書くのを習慣とするため、週 2 回英字で 500 字のブログを投稿するように学生に指示しています。また、ブログのコメント欄でも英語で返信するように指示しています。

ブログはクラスの全員が閲覧できるため、学生は自分の発言に責任を持ち、クラスメートに読まれるということで課題に真摯に取り組むようになりました。クラスメートの投稿に返信したり自分自身が投稿することにより、英語で書くことやコミュニケーションすることに慣れていくことが考えられます。結果として学生は学期末までにブログを通じて 7,500 字程度の文章を書くことになり、大きな達成感を得ることができています。

さらに、ブログ機能は通学途中にスマートフォンで簡単に閲覧することができるようになっていきます。これにより、学生が効率よく他の学生の学習への取り組みを確認することができるようになりました。

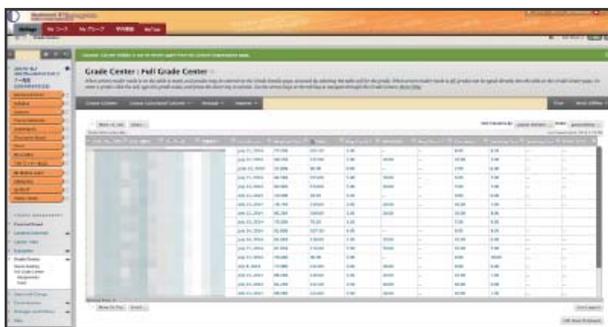
② 成績管理機能の活用

次によく活用する機能は成績管理です。

ELF プログラムの評価基準はさまざまですが、成績管理は学生の成績や学習状況を管理するにあたって最適な方法です。

私が担当するクラスでは現在の成績状況を学生に公開しており、それゆえに学生は学期中いつでも自分の成績を確認することができます。

成績管理機能は自分の成績に関心ある学生に好評で、学期後半にさらによりよい評価を得ようとする学生のやる気を引き出すのにも役立っています。また、成績が不公平だと不満を言う学生のクレームを未然に防ぐ役割も果たしています。



Student Name	Grade	Score	Grade	Score	Grade	Score
John D. Doe	A	95	B	85	C	75
Jane E. Smith	B	85	C	75	D	65
Michael F. Brown	C	75	D	65	F	55
Sarah G. White	D	65	F	55	W	0
David H. Black	F	55	W	0	W	0
Emily I. Green	W	0	W	0	W	0
Robert J. Blue	W	0	W	0	W	0
Amanda K. Yellow	W	0	W	0	W	0
Christopher L. Purple	W	0	W	0	W	0
Stephanie M. Pink	W	0	W	0	W	0
Brandon N. Grey	W	0	W	0	W	0
Nicole O. White	W	0	W	0	W	0
Kevin P. Black	W	0	W	0	W	0
Michelle Q. Green	W	0	W	0	W	0
Timothy R. Blue	W	0	W	0	W	0
Rebecca S. Yellow	W	0	W	0	W	0
Gregory T. Purple	W	0	W	0	W	0
Christina U. Pink	W	0	W	0	W	0
Jonathan V. Grey	W	0	W	0	W	0
Stephanie W. White	W	0	W	0	W	0
Brandon X. Black	W	0	W	0	W	0
Nicole Y. Green	W	0	W	0	W	0
Kevin Z. Blue	W	0	W	0	W	0

Bb 成績管理画面

③テスト機能の活用

テスト機能には自動採点機能があるものもあり、採点の手間を省くことができ非常に有用です。テストを作成するためには Excel ファイルを作成する時間が多少必要となりますが、それでも通常の試験問題を作成するよりも大幅に時間を短縮できます。

また、学生が受験したテストの結果は成績管理に自動的に更新されるので、学生の得点を簡単に確認することができます、時間を短縮することができます。



Question ID	Question Text	Answer
1	What is the capital of France?	Paris
2	Which planet is known as the Red Planet?	Mars
3	Who wrote the play 'Romeo and Juliet'?	William Shakespeare
4	What is the largest city in Japan?	Tokyo
5	Which element has the symbol 'Au'?	Gold

Bb テスト機能画面

学生にもテスト機能は好評です。なお、テ

ストはスマートフォンでも回答・提出することができ、成績を確認することもできます。

④アナウンス機能の活用

学生に連絡する手段として電子メール機能がありますが、受講生全員に連絡する機能としてはアナウンス機能がより有効です。

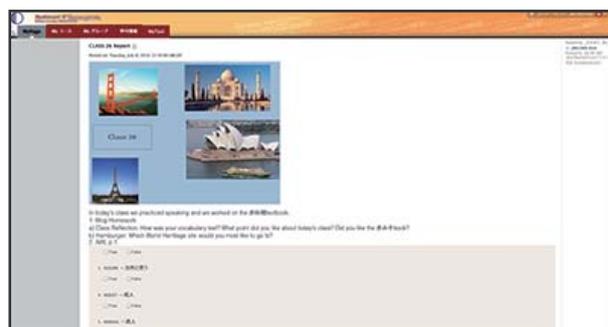
授業終了後に授業の内容をまとめたレポート課題を提示するのですが、その連絡をするために、アナウンス機能を活用しています。

このような情報は授業内容を復習したい学生や欠席のため課題に関する情報が必要な学生に特に役立っています。また学生が宿題に取り掛かるためのきっかけになるような効果もあります。

⑤コースページのカスタマイズ機能の活用

自分のクラスの Bb ページをカスタマイズすることもできます。

私のアナウンスでは Quizlet という埋め込みプログラム <www.quizlet.com> で作った語彙クイズを組み込んでいます。下のスクリーンショットは、クラスのレポートページにおいて語彙クイズを組み込んでいる様子です。



埋め込みプログラム (Quizlet) 使用画面

他にも、学生が授業中、或いは自宅で使用できるビデオやオーディオコンテンツを埋め込むマッシュアップ機能も活用しています。外部のウェブサイトへのリンクを追加したり、学生が定期的アクセスしてほしい情報を格納したナビゲーションバーをカスタマイズすることも出来るようになっています。

◆ ELF の授業における Bb の活用

(コーテ先生)

私は、学期の初めにアナウンスを投稿したり授業の資料を配信するために Bb を利用します。また、学生にも Bb を十分使いこなしてほしいと伝えています。

主にアナウンス、ブログ、日誌、項目、電子メール、成績管理を利用します。他の教員と同様に、アナウンス機能を使って授業の注意事項や大学の情報を共有したり、提出期限が近づいている課題について学生に知らせたりしています。また、アナウンスを投稿した時点で受講生にメールが送信される機能を使用しています。学生はアナウンスが掲載されたことを自分のパソコンや携帯電話で知ることができ、アナウンス内容の確認をすることができます。

①コースブログ

英語を使っての対面授業は 1 週間で 200 分と限られています。そのため、私は Bb のブログ機能を活用しています。ブログは受講生が英語でコミュニケーションをするための重要なツールとして位置付けています。



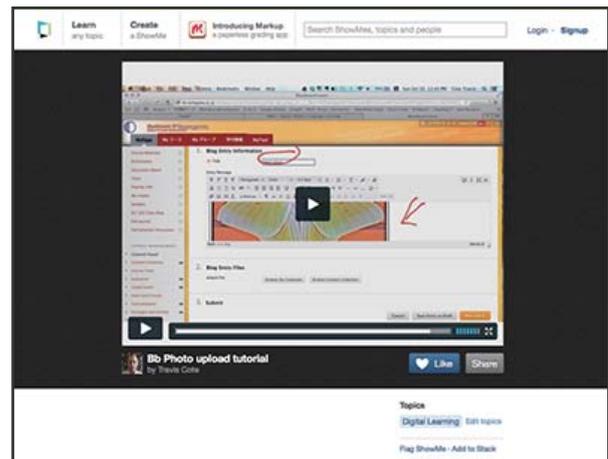
Bb ブログ画面

教員はブログを教員と学生が一对一でやり取りを行う方法と、投稿した内容をすべてのメンバーに公開する方法のいずれかに設定することができます。私は学生が教員とだけでなく、学生同士が互いに英語でコミュニケーションすることが必要だと考え、受講者全員に公開する設定を使用しています。

私はブログを授業の最初の日に開設し、学生にブログの使い方を教えます。これにはかなりの時間が必要ですが、学生が自ら ICT ス

キルを覚えるという点で非常に有益です。

多くの学生がブログを公開する方法のうち、写真を添付する方法に関して別に説明が必要となります。私はその対策としてその操作方法を説明した 5 分程度の動画を作成し、コースページにアップロードして学生が任意のタイミングで確認できるようにしています。



ナビゲーション動画掲載例

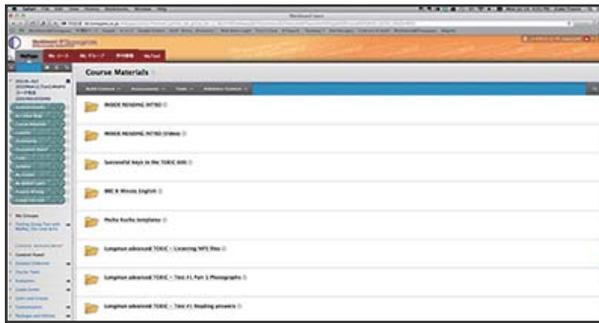
学生は Semester の終わりまでに毎週 2 記事、合計 30 記事のブログを作成します。私は、英語の文章を使って表現していれば、多少のスペルミスは気にしません。ブログのテーマは自由で、写真を共有したり、他のクラスメートの投稿にコメントすることをすすめています。

今学期は学生に対して小論文を作る 2 つめのブログを学生に課しました。投稿されたら私のブログにその一部を紹介します。そしてそのブログにはコメントを残すよう他の学生に指示しています。

Bb の通常機能ではありませんが、ELF のプログラム内のすべてのコースで「Course Materials」というボタンを設定しています。

学期の始めに、すべての教科書関連の教員マニュアル、解答と MP3/audio ファイルが個々のコースにアップロードされます。加えて各 ELF 担当教員は学生と共有したいデータやコンテンツの素材を自由にアップロードすることができます。

成績管理機能は頻繁に利用しています。成



Course Materials 画面

績管理機能は適切に利用するために事前に準備する必要がありますが、準備が完了したら学生の学習の状況を簡単に確認できるようになりとても使いやすくなります。得点や成績は自分で入力する必要がありますが、総合得点の計算や加点は自動的に処理されます。また、得点や評価結果を学生が閲覧できないように設定することもできます。

成績管理機能は学生には「My Grades」として表示され、自分の成績のみを確認することができるようになっていきます。

◆クラブ活動における Bb の活用 (コエテ先生)

今年の初め、玉川大学のクラブ活動である「イングリッシュ・スピーキング・ソサイエティ (E.S.S.)」の顧問に任命されました。そこで、E.S.S. の活動に Bb を活用すべくグループページを作成しました。



E.S.S. グループページ

E.S.S. メンバーは週に二回集まり、英語を練習したり、時事問題を議論したり、論争中の話題をテーマにディベートしたりしています。現在 Bb の E.S.S. グループページでは、メンバーのブログ、オンラインディスカッションフォーラムを始め、毎週のミーティングと議事録を記録するフォルダの作成・管理をしています。そ

れに加え、カレンダーツールを追加し、重要な日程については部員同士が共有し、スケジュールを管理しています。

E.S.S. 部員の学生は Bb 上でアシスタントという権限が与えられています。これは情報の掲示、ページのデザインやレイアウトの編集、新しいディスカッションテーマの投稿、スケジュールの追加、ブログの編集といった権限を有しているものです。

◆まとめ

ELF 科目を担当するほとんどの教員は、玉川大学、ELF プログラム、Bb を利用した学習マネジメントは初めての経験となります。これらの教員に対して CELF が行うガイダンスやワークショップによって、先の点についての理解に大きな進展が見られ、大変心強く思っています。実際に過去 2 年間の集計でも、ELF 科目担当教員が Bb の利用に対して最も積極的であるという結果が出ています。

また、一部の教員は将来における Bb の更なる活用方法として、スマートフォンやタブレットに適合したモバイルデバイス用の Bb アプリを検証しています。そして、教員一人一人が Bb についてより深く理解し活用できるよう、e エデュケーションセンターや Blackboard Japan、Bb を活用する他の大学との連携を強化していきたいと考えています。

CELF では教員の研修だけでなく、Bb 上においてシラバスに関する課題を共有したり、検討するような機会になるワークショップを今後開催していく予定です。我々は教員を支援する Bb や様々なデジタルツールを活用して教員のスキルや経験が増し、ELF プログラムの質が向上することで、玉川大学の教育環境の向上・充実につながっていくことを期待しています。

(翻訳・編集：ELF センター 河津 真子
e エデュケーションセンター 篠原 裕章)

「コンピュータ演習室」・「MyPC プリンタ」 リプレイス作業について

8月1日~9月7日の期間にかけて行いました「コンピュータ演習室」と「MyPC プリンタ」のリプレイス作業についてご報告します。

◆「コンピュータ演習室」リプレイス作業による主な変更内容

今回のリプレイス作業によりコンピュータ演習室機材の仕様を下記の通りに刷新しました。

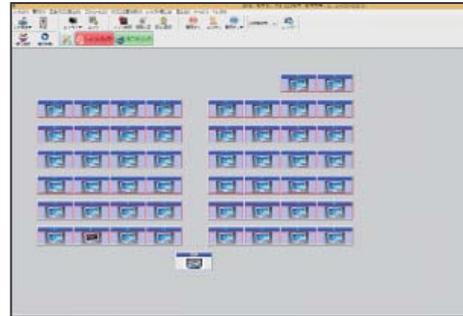
1. コンピュータ演習室に設置する PC の構成
[CPU: Core i7 3.60GHz、メモリ: 16GB、SSD128GB、GPU: GeForce GT635]
※ 5号館 127 のみ ゼロクライアント端末を設置しております。
2. OS : Windows8.1
3. Office : Microsoft Office 2013
※上記以外のソフトウェアに関しては、
以下の PC 演習室のホームページに記載します。
<http://wm.tamagawa.ac.jp/ict/pcroom/>
4. ブラウザソフト : Internet Explorer 11
5. Adobe (PhotoShop, Illustrator) CS6
6. 授業支援ソフトウェアは WingNet から eWatcher へと変更
※機能の変更はなく、さらに簡易操作キーボードから利用できます。



PC 演習室 (5号館 127)



PC 演習室教員用 PC



eWatcher 基本画面

7. Linux 環境は、Windows PC 上の仮想環境にて動作
8. 5号館 127 については通常の PC ではなく、ゼロクライアントを設置
○ゼロクライアント…仮想デスクトップ環境を利用することを前提に、単体としての機能を極限まで削減したコンピュータ端末。
※利用できるソフトに変更はありませんが、CD、DVD 等光学メディアは利用できません。

◆ MyPC プリンタの主な変更内容

MyPC プリンタの機器もいくつかの箇所を除いて、最新のプリンタに刷新されております。

また、今回新規に大学 3号館の 3階と大学 4号館の 3階に MyPC プリンタを 1台ずつ増設しました。

この変更内容により、学内での MyPC プリンタの利便性が、より一層向上することとなりました。



MyPC プリンタ (4号館)

Blackboard@Tamagawa

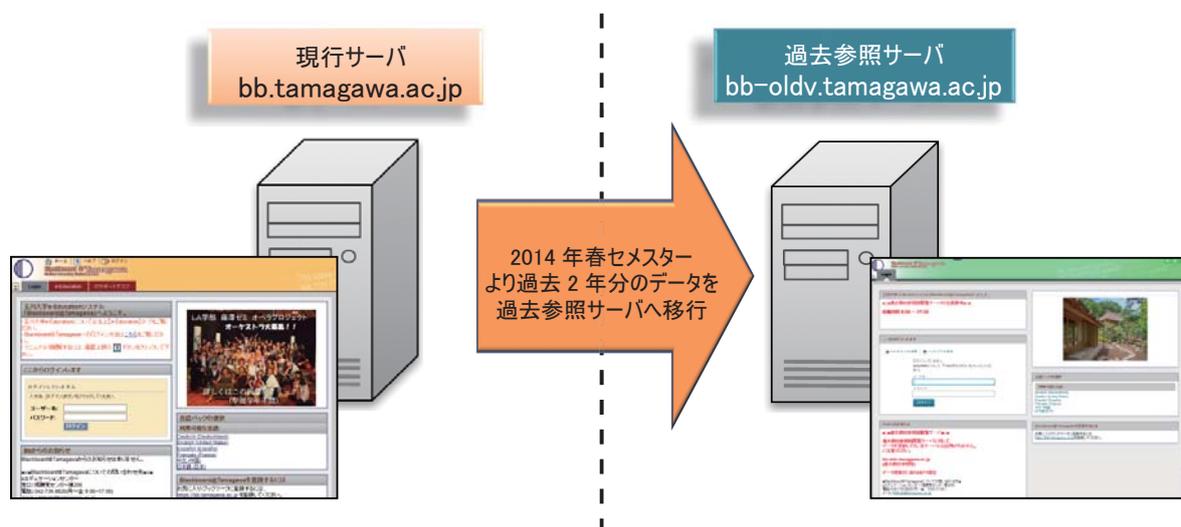
03 サーバメンテナンスの完了報告

Blackboard@Tamagawa は、夏期休暇期間を利用してメンテナンス作業を実施致しました。Bb は年度ごとに分けて管理を行っており、メンテナンス作業によって、コンテンツおよびデータベースアクセス処理最適化を行っております。

「過去参照サーバ」では、最大2年分のデータを確認することが可能です。過去データを閲覧する必要がある場合に依じて、利用をお願いします。

◆ 過去参照サーバの利用について

URL <http://bb-oldv.tamagawa.ac.jp>
稼働時間 9:00 ~ 17:30



現行サーバ内のデータ	年度 セメスター	過去参照サーバ内のデータ
× (参照不可)	2012年 秋	○
× (参照不可)	2013年 春	○
○	2013年 秋	○
○	2014年 春	○
○	2014年 秋	—

表 1. サーバデータ移行について (2014年9月現在)

編集後記

記事で紹介されている通り、SELF では Bb のコミュニケーション機能を活用されています。

これらの機能は e-Education NewsLetter 2011 特別号 2 及び 2012 Vol.1 に記載されていますので、ぜひご覧ください。

また、PC 演習室、ならびに MyPC プリンタのリニューアルも完了しました。学生の学習効率向上に役立てていただければ幸いです。

e-Education NewsLetter 2014 Vol.2

2014年10月発行

玉川大学

eエデュケーションセンター

東京都町田市玉川学園 6-1-1

Tel : 042-739-8820

Fax : 042-739-8825

eメール : bbhelp@tamagawa.ac.jp